

黒髪山コース (10 km 11 ポスト)
佐賀県 No. 12 J O A 公認 No. 363

レッドデータブック地帯

今年俄かに話題となった佐賀県ですが、パーマネントコースはレッドデータ地帯。野放し状態のため、コースの存否が確認できない状態にあります。そんな中、県協会溝江氏から「西有田唐船城」コースのマップと「虹の松原」「黒髪山」は大丈夫だろうとの情報を頂き、春先に訪れてみました。今回はその中から「黒髪山」コースを紹介します。

佐賀県南西部、山内町に設置されている当コース。スタート地点の「黒髪神社」へは、JR佐世保線「三間坂」駅から徒歩にて35分ほど。道路脇の境内に案内板が置かれています。従来の管理者は山内町教育委員会でしたが、現在ではマップの扱いすらなく、案内板からもマスターマップは取り外されています。コースは手直しされているにもかかわらず、マップの入手ができないことで、現在使用不能となっています。数年前に入手しておいたマップがあったため、それを頼りに歩き始めます。

コースは健在だった

まずは水田地帯を西へ。小高い丘の南側へ差しかかると、カーブの先に古びた休憩所とやや小型ながら鮮やかな赤色を放つポストが同時に目に飛び込んできます。何となく抱いていた不安な気持ちは一気に解消され、一転、期待感が膨らんできます。

山肌を正面に見据え、センターラインのない舗装道路を北西へと進みます。川の西岸に渡り、山裾をたどると再び橋に差しかかります。その先にもう一つ小さな橋があり、第2ポストはその橋の袂に置かれています。

第3ポストはアドベンチャー気分満点。突き当りを西に向かうと堰が現れます。その先から道が細くなり、地図上では北側に迂回するところで遂に消滅してしまいます。無理に従来の道を探らずに川沿いの荒地を突破すると、2つ目の堰に到達。川はここで二股に分かれており、OLコースのルートは向かって左手の沢沿いを登ることになります。堰を超えると、そこにはイノシシが居合わせ、私の姿を見ると一目散に逃げ去って行きました。沢に沿っ



たルートは正に獣道。藪をかき分けながら緩やかに登って行くと、広い道に抜け出し、右手にポストも確認できます。

第4ポストのある「乳待坊」へ続く遊歩道はこのコースのハイライト。よく整備されたルートで、気分よく高度を稼いでいくことができます。眼前にそびえる岩壁は安山岩質の凝灰角礫岩が侵食されてできたもの。黒髪山の独特の景観を形成しています。道幅も広くなり、穏やかなルートの中で登りの疲労を和らげながら進むと「乳待坊」に到着。あずまの先に岩壁を眺望する好ポジションがあり、ポストはそこに置かれています。他に「勝学坊」「里坊」などがあり、いずれも鎌倉時代からの修験者の拠点となっていたところです。

ここからは下り。広い道路から左手に歩道が通じています。沢を回り込むように2つの小さな橋を渡ると第5ポストに到達。

平地に下る途中の道端に立つ第6ポストを確認し、コース変更後に新たに組み入れられた九州自然歩道に分け入ります。静かな林の中を東に向かうと、分岐で第7ポストを発見。そして、真南へ下ると、「筒江窯跡」にて第8ポストが確認できます。

従来のコースでは、この南側にある丘の鞍部にもポストが設置されていました。しかし大きく掘削されてしまい、今は立入禁止となっています。鞍部そのものも以前の姿をとどめていません。

第9ポストはゲートボール場ができたことで、池の北側から東側に移されました。道端になったことで、発見は容易になっています。

山間を抜け、第10ポストも池のほとり。そして、民家近くの分岐で最終ポストを確認して「黒髪神社」に戻ります。

穴場の魅力？

山内町は佐賀の名所有田に近く、翌日は観光。江戸時代の有田焼を収集した柴田夫妻コレクションのある「九州陶磁文化館」と、珍しい白磁製の鳥居や狛犬があり、陶祖李参平を祀る「陶山神社」を訪ねました。また、豆乳に葛とでんぷんを溶かし込んでつくる有田の郷土料理「ごどうふ」と伊万里牛のステーキは絶品です。

標高516mの「黒髪山」を挟んで西側には「西有田唐船城」コースも立派に整備されています。OLと観光を組み合わせた穴場の小旅行を楽しみに行きませんか。(2003年3月9日踏破)

「黒髪山」コースは現在マップが入手出来ません。挑戦希望の方は私宛にメールにてご連絡下さい。カラーコピーマップをご提供致します。

メールアドレス: olpc@bd.mbn.or.jp
(大高竜亮)